

<人吉球磨地域／文化・観光・地域づくり等団体>

日 時：令和2年11月3日（火）10時00分～12時00分

会 場：球磨地域振興局2階大会議室

参加者：10名

【発言者①（一般社団法人人吉温泉観光協会）】

人吉温泉観光協会の〇〇といいます。よろしく申し上げます。今回発言の機会をいただきまして、ありがとうございます。

7月の豪雨災害では、うちの観光協会の会員が203名おりますが、3分の2の134会員が被災しております。

人吉市内の宿泊施設に限れば、37施設中26施設が被災しているような状況ではありませんけど、ぼちぼち市内のほうのビジネスホテル系は再開にこぎつけたところもございます。

ですが、全体的にみますと、なかなかやっぱり、旅館さんにしても、早いところで来春の開業、リニューアル開業ということで、遅いところになりますと、やはり来期の秋以降ということで聞いておりまして、なかなか復興が、それぞれバラバラというところがございます。その一因としましては、作業員の不足であったりとか、そして資材の調達がなかなか難しいということで、工期の遅れ等があるようでございます。

全国的に言いますと、GoToキャンペーンが始まりまして、私たちもはがゆい思いをしているところではあるんですけど、観光協会が管理しております観光案内所のほうにも、人吉に行きたいということでお電話いただいているんですけど、なかなかやっぱり、観光では難しいということでお伝えしているところです。

もう一つ、今まで観光の目玉であった肥薩線なんですけど、やはり毎週週末になりますと、SLが走ってきて、観光列車の「ななつ星」等が走ってくると、やはり駅前のほうは賑わっておりましたが、その賑わいはなくなったというところで、もうなかなか住民の方もさみしい思いをされているのかなと、感じている次第です。

そういう中で、今県のほうからも被災地域産業再興支援ということで、私たち観光協会のほうにも支援をいただきまして、今、なりわい再建にむけて旅館組合さん等と連携しながら事業を進めているところであります。

そういう事業をいただいている中なんですけれども、旅館さんもそれぞれバラバラと再興されています。

そういう中で、少しやはり息の長い支援をしていただければなというところで、やはり旅館さんのほうも、今再興をすればこういう支援が受けられるでしょうという話もされていて、私はちょっと遅いところについても、やはり同等の支援、少しずつ息の長い支援をいただければなというところでは。

まちづくりの中では、やはり中長期的な支援としまして、観光セクションとあと都市計画のセクションと少しわけまして支援をいただけないかなと。

今、人吉の全体を見渡してみると、やっぱり生活再建というのが第一優先ではあるんですけども、人吉という地はやはり観光で成り立っていた町ですので、その観光が一旦止まってしまうと、再始動するにはやはりなかなか力がかかるのかなということで、少しなりとも動いているということが必要かなと。

先週ですけど、実は観光協会のほうで、修学旅行の受け入れをしました。

東京からの54名の子達だったんですが、多摩大学の付属だったんですけど、実は今回被災したことにつきまして、その被災した状況を知りたいということと、あとは地域の人たちの声を聞きたいということで、学問の意味でも意義のあることだということで英断していただきまして、私たちも受け入れることができました。それをきっかけに、熊本市内の自治会の方が、12月にそういう人たちの、被災された方達の地域のつながりということで、ちょっと話をさせていただけないだろうかということで、少しずつ人吉の観光のあり方も、今までは物見遊山的に見てまわる観光だったんですけども、今回被災したことによって、そういうものもちょっと学びに来たいというニーズが出てきたということで、少し私たちも観光協会としましてやっとな動きだせたというのが現状です。

最後になりましたが、人吉市内みんな、復興に向けて踏ん張っていきたいと思いますので、支援をよろしく願いいたします。以上です。

【発言者②（人吉温泉旅館組合）】

今、観光協会のほうから旅館その他の関係でご紹介いただき、重複いたしますが、私ども人吉温泉旅館組合と申しますのは、名前では皆様ピンとこない部分があるかもしれませんが、時間が7分とおっしゃったものですから、少し時間の余裕があるようなのでご紹介を申し上げます。

地元の方ですとわかるかと思いますが、川上のほうから申しますと、丸恵本館それから鍋屋本館、あゆの里、それからホテルサン人吉、駅前であおやぎ、朝陽館、芳野旅館、人吉旅館、それから翠嵐楼、合計9軒でございます。

本日は豪雨災害からの復旧・復興ということで、なりわい補助金を含めまして県の皆様、国の皆様、市の皆様を含めまして、本当にいろいろご協力いただいて、それぞれ問題は抱えておりますが、相談させていただきながら今後どの

施設もここで脱落することなく、復旧・復興したいということだけは申し添えておきます。

本日はそういう復旧・復興のあり方よりも、私のほうでは治水対策の方向性ということで意見を述べさせていただきます。

旅館組合、結論から申し上げますと観光業を担う立場といたしましては、次に挙げる理由から7月豪雨の治水対策として、川辺川にダムを建設することに関しましては、断固反対いたします。

理由その1としては、ダムの建設はその型の如何に関わらず自然の流れを堰き止めることに変わりはなく、球磨・人吉の海域、森林、球磨川、川辺川、八代海や有明海などの社会的共通資本である自然環境を破壊することは、これまで多くの具体例からすると容易に想像でき、日本一の清流が失われることはもとより、川の濁りや大事な資源である鮎の生育や品質に重大な影響を及ぼします。

また、この地方のきれいな水から生産される球磨焼酎へのイメージも悪くなる恐れがある。

全国的にもダム本体やダム湖による観光的な成功例はほとんどない。

理由その2として、温暖化に伴う近隣の異常気象により、2017年の九州北部豪雨、2018年西日本豪雨など、記録的な大雨が降り、線状降水帯による豪雨災害はどこでも起こり得ることは、今回の災害でも明らかです。

国交省も川辺川ダムで今回の被害は防げなかったと説明しております。

想定以上の大雨によるダムの緊急放流による下流域の被害は、2018年西日本豪雨で愛媛県の肱川の2つのダムの緊急放流で犠牲者が出たことでも明らかのように、ダムでの貯水、地形に関係なく直線的で早く水を下流に流すという従来の治水対策では洪水調整ができなくなっていることを物語っております。

限度を超える超過降水に対しては有効な対策が検討されておらず、ダムは治水対策の最後の手段ではなく、ダムによらない対策を検討すべきと思います。

国交省が7月に転換を打ち出した流域治水の一環として、利水ダムの治水利用という対策も想定不可能な場面では機能しなかった模様で、ダムや堤防が対策の中心であることに変わりはなく、ダムを守るための緊急放流という過去の実績からしてみても、ダムへの不信感は消えておりません。

今回市房ダムは、一時緊急放流を通知しました。

雨の状況次第でもし実施されていれば、浸水はさらに大規模となり犠牲者の数はさらに増えたものと思われます。

被災の記憶が生々しいとはいえ、ダム建設計画は未来、来年、再来年には間に合いません。今やるべきことは、復旧と同時に堆積土砂の撤去など、できることから取り組むことだと思います。

12年前、蒲島知事には「球磨川は宝だ」とおっしゃっていただきました。

そして今回の被害に遭ってもなお、ダムによらない治水を選択し、宝を守ることが青井神社の創設以前、そして以後、この地域に住み続け、築き上げてきた祖先に対して現在を生きる者の責務である。これからもこの地で生きていく我々の子孫の世代に、100年の自然を破壊するダムではなく、川の流域住民が共生できるこの自然環境を引き継ぐことが、我々の使命と考えます。以上の意見が、私ども人吉温泉旅館組合の総意として述べました。以上でございます。ありがとうございました。

【発言者③（相良村観光協会）】

相良村観光協会の〇〇と申します。よろしく願いいたします。

まずは、やっていただきたいことは、被災者の一日も早い再建をしていかなないと人吉の復興はあり得ないと思っております。

治水に関しては、川辺川というのは相良村にとって大切な観光資源でありますので、あのきれいな川辺川は将来に残していかなきゃいけないと思っております。このような治水対策をとってほしいと考えております。

私ども川辺川が見えるところに住んでおりますが、毎年洪水の度に川の流れ、これは変わっております。今まで渡れなかった川が歩いて渡れるような川になっております。

だからまずは土砂の撤去とともに、その土砂の流出を防ぐような対策をとっていただいて、その撤去している間にも洪水が起きると思うんですね。その対策も引き続きお願いしたいと思っております。

それと、観光でいいますと、今GOTキャンペーンが行われておりますが、この被災地にとってはほとんど恩恵がないといっても過言ではないです。

まずはこの観光対策を第一にとっていただきたいのと、人吉市の発展なくして人吉球磨地方の発展もないと思っておりますので、早急にこの観光対策をとっていただきたいと思っております。

それと、今先ほどから流域治水とかいろいろ説明がありましたけど、我々も高齢化しておりますので、その流域治水およびダムの利点・欠点をもう少しわかりやすく説明していただければと思います。以上です。

【発言者④（球磨村観光協会）】

球磨村観光協会の〇〇です。

球磨村はご存知のとおり、広範囲で住宅等全壊、浸水、道路決壊、橋梁の流出、これらの被害を受けました。球磨村観光協会は球磨村役場を事務局として、球磨川下りさん、ランドアースさん、球磨川リバーサイドキャンプ場さん、球泉洞さん、そして私一勝地温泉かわせみなんですけど、5会員で構成されています。

一勝地温泉かわせみ以外は球磨川沿いに位置して甚大な被害を受け、現在4社とも休業中です。

かわせみは、建物、施設は幸いにも被害はございませんでしたが、球磨村がこういう状態なもんですから、かわせみは第3セクターでやっているものですから、8月末で一回全員解雇というかたちになりまして、5人が再雇用になりまして、温泉だけ短縮営業をしている状態です。

宿泊に関しては、球磨村役場を通して、災害支援に来られている方の宿泊施設として今やっております。

素泊まりが原則なんですけど、希望があれば先月末から朝食だけ提供する感じでやっております。

被災された、避難生活の村民の方は4か所の仮設団地が、球磨村に3か所、錦町に1か所が10月には完成し、村の避難所は閉鎖され、各仮設団地に入居されました。

特に甚大な被害を受けた渡の茶屋地区というのがありますが、球磨川くだりさんの以前の急流コースの発船場近辺なんですけど、この地区とかがかなり被害を受けています。

また、球磨川右岸の山間部はまだ電気とライフラインが寸断されている集落があります。

球磨村はこういう状態ですので、人口流出、集落の存続危機が予想されています。

ご存知のように、球磨村は球磨川国道219号に沿って集落が続きます。

今日の会議資料にもございました、川辺川ダムがあった場合の資料もありましたので、それも含めてダムの選択肢も含めて、村民の生活を一日も早く取り戻すために、道路・橋梁等の復旧・復興を進めていただきたいと思います。以上です。ありがとうございました。

【発言者⑤（人吉球磨観光地域づくり協議会）】

人吉・球磨観光地域づくり協議会の〇〇と申します。

まずは、この度の豪雨災害におきまして、蒲島県知事をはじめ熊本県職員の皆様には多大なるご支援を賜っておりますことを、この場をお借りいたしまして心より感謝を申し上げます。

人吉・球磨観光地域づくり協議会は、3年前より人吉・球磨の10市町村の行政と、20代から40代の観光事業者が、若手異業種で官民一体となりまして観光地域づくりを推進する協議会で、会員は10市町村をはじめ、商工会議所、各観光協会、交通、金融機関、学校等97団体が所属されております。

また、これまで10市町村がそれぞれに観光戦略を立てておりましたが、人吉・球磨がはじめて一体となりまして策定した「風水・祈りの浄化町」を人吉・球磨観光戦略として掲げまして、今年度はいよいよ観光商品の造成およびマーケット開拓の年でございました。

私のほうからは、昨今のコロナ禍や豪雨災害以前の、そもそも当地における観光課題と復旧・復興についての懸念について次の3つにまとめさせていただきました。

まず一つ目に風評被害です。水害から時が経つにつれ、被害の少なかった球磨地域で営業中の宿泊施設、観光施設、飲食店等が観光旅行から回避されてしまう傾向にございます。

これまで以上に情報交換を密にさせていただき、ありとあらゆる県の観光PR等の機会がございましたら、必ずや県内の観光動線上には人吉・球磨地域が入る周遊ツアーのアピールをお願いいたします。

また、復旧・復興のめどがついた矢先には「ふっこう割」のような需要喚起策をお願いいたします。

二つ目に人吉市街地のまちづくりについてです。

国内外からの誘客を図るため、今後のまちづくりは景観を重視し、町の景観設計、土木、建築、都市計画、照明など全ての部門の専門家を招聘し、観光関連事業者とチームになってまちづくりができる環境をご支援いただきたく存じます。

そして、今まで以上に魅力があり、美しい明かりが灯る城下町の復活となり、ひいては南九州のハブとなるオンリーワンの観光地になれるようご支援・ご協力をお願いいたします。

三つ目に観光動線の創出です。

人吉・球磨への観光動線のみならず、域内の観光を支えていた人吉の主力観光名所が被災したことによりまして、人吉市から球磨郡への観光動線も喪失してしまいました。

まずは、人吉・球磨を観光地として従来のゼロベースに戻す復興を助けていただきたく存じます。

さらに、これまで以上に観光動線を強化するためのハード、ソフト両事業のご支援と近隣の鹿児島県や宮崎県との越境した観光政策の連携にも、柔軟にご推進いただきたく願います。

次に治水対策についてです。

治水は、今後の人吉・球磨を担う事業者や住民の目指すまちづくり構想をもとに考えられるものと存じますので、引き続きお話をさせていただく機会を十分に設けていただきたく存じます。

最後にこの度の豪雨災害により、域内における観光経済への影響は甚大で、本当に言葉では言い表しようのない状態でございます。

人吉・球磨が観光地として忘れられようとしている状態であるにも関わらず、観光という言葉を発せないほど観光復興は後回しにされがちです。

復旧のために日々奔走いただいている中で大変ご無礼ではございますが、ぜひともこれを機会に「人吉・球磨風水祈りの浄化町」を強力に推進していただきまして、また、スピード感をもっていただきまして、地元の的確な内容を少しでも早く正確に吸い上げてくださいますようよろしく願いいたします。

以上でございます。ありがとうございました。

【発言者⑥（球磨川ラフティング協会）】

球磨川ラフティング協会の〇〇です。よろしく願いいたします。

今回7月4日豪雨の際に、私たち川ラフティング事業者は球磨川沿いに事業所がたくさんあります。その中で14社中9社被災しております。

その9社の中で6社が事務所ごと流されています。

その中でやっぱり復興というかたちで話をさせていただくと、流されてしまった事務所やら事業所もそうなんですけど、ちょっと時が遡るんですけど、熊本地震時に私たちラフティング業者、その年50%減りました。お客様がですね。

やっと去年で、前年ベースになるぐらいのお客さんがやっと来てくれたんですけど、今年はコロナのこともあり、ほとんど100%のお客様が来れない状況の中、ラフティング協会としての復興は、やっぱり球磨川が以前のように楽しくツアーができるような、きれいな川になるというのが復興なんじゃないかなと思います。

どうでしょう。流域の皆さんも家が流されたりとか、ちゃんと生活ができないそういう中での復興を考えながらラフティングをするにあたって、ちゃんとツアーができる川になってほしいというのが、ちょっと話がバラバラになっているんですけど、それが復興なのかなとラフティング協会としては考えます。

あと、治水なんですけど、いろいろな治水の形があるかと思います。

ただ、私たちの事業所としては、きれいな川、そういうのがちゃんと守られての治水というのを望みます。

球磨川と川辺川、広い川なので、楽しく遊んだり、子どもたちが楽しめたりする川を作っていただけの治水というのが、私たちが望んでいる治水です。

利水なんですけど、利水とは？というのを調べたら、河川や河川に伴う湧水、沼や湖から水をひき、その水を利用すること、ということになるんですね。

ということは、やっぱり止めるのかなというのが、利水ということはそういうことなのかな、というふうに思いました。

利水、水を利用するということが利水であれば、やっぱり川辺川のきれいな水を利用して生きていくのであれば、それも利水なのかなと思います。

なので、このきれいな水を利用している方々のちゃんと生きていける感じの利水というのを考えていただけたらと思います。

あと、気になるのは川辺川ダムの話が出たんですけど、増水期の水位の最高とか、ダムができたなら抑えられるという水位等はあるんですけど、平常値の水位が聞きたいんですね。

ダムができて、川辺川がどのくらいの水位で、通常、日常がどのくらいの水位になるのか、水質はどのくらいになるのか、その辺で私たちも商売をしているもので、ラフティングができるかできないかというのはやっぱり水位と水質がめっちゃ大切なので、その辺を調べていただいてというか、公開していただければなと思います。ラフティング協会からはこれだけです。ありがとうございました。

【発言者⑦（ひとよし球磨青年会議所）】

本日、理事長が所用のため出席できませんので、私のほうが代理として出席させていただきました。

本日は私どもの意見等をお聴きする時間を作っていただきまして、本当にありがとうございます。

まず簡単にひとよし球磨青年会議所の紹介をさせていただきます。ひとよし球磨青年会議所は、20歳から40歳までの青年が集まって、人づくり地域づくりをやっている団体となっております。

災害に関しましては、人吉市社会福祉協議会や人吉市と災害に関する協定を結んでおりまして、今回の令和2年7月豪雨に関しましては、人吉市のボランティアセンターの立ち上げや運営に関しまして、その支援等をさせていただいております。

また、人吉防災センターとの勉強会というのも進めておりまして、ちょうど今年は4月と9月に、特にこの水害関係を中心にして事業なんかを計画してい

たんですけど、コロナウイルスの影響であったり、9月に関しましては7月の豪雨災害によってこれが実施できなかったという状況になっております。

次に意見のほうに移らせていただきたいんですけど、治水に関しまして、特にハード面に関しましては、会の特性上、特に特定の意見というのを述べるのができませんので、この点に関しては意見のほうは差し控えさせていただきたいと思います。

ただ、来年、また6月、7月になると、梅雨の時期がやってきますので、そういう意味では災害というのは待つてはくれませんので、特にできる対策というものを早急に実施していただければという思いもあります。

今回、資料の中で特に川辺川ダム関係の話も出てきたんですけども、川辺川ダムの恩恵を受けないところ、例えばその錦町の一部であったり、そういう所もそこで浸水被害等発生しておりますので、そういった所に関してもきちんと議論をしていただいて、そういったところも忘れないように、そこも漏れがないように今後の治水対策をしていただければと思います。

ソフト面に関してなんですけれども、いずれにしてもそのハード面に関しては、どうなるか結論が出るにしても時間がかかるかと思っておりますので、特に今回この水害で逃げ遅れた人等が多数出ているかと思っておりますので、例えば私のところ、青年会議所で今年事業として考えてみるならば、人吉市役所の防災安全課等の勉強会の結果、マイタイムラインというかたちで、各家庭における避難計画等を作っていくというところを計画しておりました。

そういう形で今回の水害を踏まえて実効性のある避難計画ができるように、これはほとんど市町村単位の話になってくるかと思うんですけども、熊本県のほうにおかれましても、そういった面の支援等も行っていただければというふうに思っております。

復旧に関してなんですけど、今回ひとよし球磨青年会議所では33名のメンバー中19名が職場ないし自宅が被災したという状況ではあったんですけど、その中でも多くのメンバーがボランティアセンターの運営等に携わっております。

その中でどうしても今回ボランティアセンターでいろんな資機材とか必要になったりしたんですけど、そういったものの多くはこの青年会議所のほうから提供させていただいたりしております。

そういった資機材なんかもどうしてもお金がかかるところではありますので、今回の豪雨災害に関しましてはそういった目途はだいぶんついているんですけど、次回以降そういった災害が起きたときも踏まえて、そういったボランティアセンターの財政的な支援という、そういったところもやっていただければと思っております。

そんな中、被害を受けていない私どものメンバーもいるんですけども、実際のところ、取引先がまだ復旧しておらず、休業をしているという状況もありまして、そういってみれば仕事がどんどん減っていつているというところで、間接的な経済的な被害というものも出ております。

そういった間接的な被害に関しましては、今後またどんどんそういったものが出てくるんじゃないかなと思いますので、そういったところで、ある程度時期をみて、そういった調査とか意見を聴いていただける機会を作っていただきまして、間接的な被害に関する、また新たな支援等を、補助金であったり減税とか免税とか税制的な支援であったり、そういったところは引き続き継続的にやっていただければと思っております。私どもからの意見としては以上のとおりになります。今後ともよろしく申し上げます。

【発言者⑧（7. 4 球磨川流域豪雨被災者・賛同者の会）】

〇〇と申します。よろしく願いいたします。

今日は貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。知事へのお願いを述べさせていただきます。

私は人吉市の中心、九日町で熊大を退官したあと、無料塾と子ども食堂を開設してきました。そして今回洪水に襲われ半壊の認定を受けました。

水害直後、熊大の元同僚達が訪ねてきて、水害復興相談窓口熊大教員OBの看板を置いていきました。

相談窓口にはいろんな相談がきます。ふれあい掲示板の内容のような相談が来ました。これからもこれは開設していく予定にしています。

そういった流れの中で、被災者賛同者の会の共同代表も引き受けることとなりました。

昨日までで、被災者賛同者の会には536人が入会していただきました。そのうち309人が被災者、227人が賛同者です。今後も集めていこうと考えております。

被災者の会の願いを別紙にまとめました。

主な内容は生活・なりわい再建をまず優先してほしいという思いです。それと（聞き取れず）は人吉・球磨の宝物なので、なんとしても残してほしいという思いが中心でした。

これは後程、知事に差し上げたいと思います。よろしく願いいたします。

知事にお願いしたいことは、たくさんありますが、今日は5点述べさせていただきます。

まず一点目は市房ダムに関してです。市房ダムの下流で暮らしている被災者は、今回の洪水で親戚、友人を失うとか、財産を失うなどの悲しみとあわせまして、すごく怖い思いをしました。

それが市房ダムの緊急放流です。異常洪水時防災操作というふうに正式にはいうんですね。ありがとうございました。教えていただきました。

濁流の中でやっとたどり着いた屋根の上でその放送を聞いた人もいます。

市房ダム建設時に、緊急放流もあり得るとの説明を聞いた覚えはないと年配の方々は言われます。ダムの下流域の住民が知らないうちに背負わされた運命だという声が出ています。

私たち被災者が欲しいデータは、市房ダムを緊急放流した場合、あの時水位が更に何m上昇したのか、2階だったら、あるいは3階だったら大丈夫だったのかなどです。個々人は自分の家のデータを持っています。これは実は建築に関する相談窓口に来る最も多い質問でもあります。垂直避難の時の目安にもなると思います。そして何と言っても住み続けるかどうかの判断基準です。

これは先ほどちょっと見せていただきましたが、28ページですね、要するにこれは大雨になったときはダムは意味がなくなるという意味ですね。ここで書いていただいているデータは。

熊日新聞の27日の記事によりますと、市房ダムは築後60年の間に3回の緊急放流があったそうです。

今回の緊急放流ギリギリを加えますと4回になります。10数年に1回の頻度です。10数年に1回の頻度でこれが来るということです。

想定外、線状降水帯など異常気象が続く中で、被災者はもっと頻繁に起こると考えています。緊急放流時の水位を示してほしい。これが第一点目のお願いです。ダムの怖さがまだ悪夢のようによみがえる中で、必死に避難生活や片付け、なりわいをどうしようかと右往左往の毎日です。そのさなかに新たなダムを作る話が出てきた。怒りと疑心感でいっぱいです。

熊本県のこれを見せていただきましたが、説明資料の中にも治水効果は具体的な数字で書かれていますが、緊急放流がされたとき、どこまであのとき水位が上がったのかというのは、やはり数字としては書いていただいていません。

ぜひダム建設を進めようとしているときは、デメリットも伝えていただきたいです。それを受けるのは私たちです。

併せて、川辺川ダムを緊急放流した場合の水位がいくら上昇するか、更に市房ダムとの緊急放流が重なった場合はどうかも知らせてほしいです。今回の被災地域、あるいは被災者が次も被災しますので、これが第二点目のお願いです。

今回の洪水は、昭和40年と比較して質も変わってしまったと被災者は話しています。ヘドロの量が多い、川というよりどぶ川の水のようでした。まだ悪臭が取れていない建物が多く、地下室を持つ建物は建て替えを余儀なくされています。なぜ水はこんなに汚染されたのか、市房ダムの環境面での検証もしてほしいです。

つまり、新たな治水対策にダムを加えるかどうかの検討の前に、ぜひ現実存在している市房ダムについて、その怖さ、環境への影響等に関して丁寧な説明や検証をしていただきたいです。これが三点目のお願いです。

熊本県民は川辺川ダム中止の時の宣言や、水俣病問題への真摯な取り組みなどを通して、私たちの知事は環境知事と誇りに思ってきました。

被災者もこの間の球磨川のことを忘れていたと反省しつつ、相変わらず球磨川が大好きです。日本一の清流川辺川や球磨川を誇りに思っています。それは変わっていません。そして、流域住民だけでなく、熊本県民も同じ思いです。

これは球磨川の水は流域だけではなく、不知火海にも影響し、熊本県民にとっても宝物だとの思いを伝えるため、熊本市内の計画事務所の方が持ってきてくれました。

海の環境も守るという視点からも川辺川ダムに関して検討してほしいと願います。

有識者会議の発言者も、球磨川流域の森林資源、環境などを生かしたグリーン・ニューディールという考えを発信してほしいとの意見が述べられていました。環境の視点も入れてほしいというのが四番目のお願いです。

今日の気候変動は予測がつきにくいです。ダムの計画は予測雨量をもとに作られるということですので、予測を超えた場合はお手上げです。

さらに、ダムは上流に降った雨しか貯めることができないので、利用価値も実は限定的です。

これは川辺川ダムで貯水することのできるエリアです。ここが川辺川ダムですから、ここの上だけになります。

だいたい人吉の雨量に影響するエリアの4分の1ぐらいの面積です。

さらに熊本県の説明資料によりますと、今回の大雨は先ほどのこれですね、今回の大雨はここが川辺川ダム予定地です。予定地よりも下流域を中心に降っていますね。つまりあまり役に立たなかったということです。

それなのに、川辺川ダムさえあれば、どこに降った大雨でも6割もカットできるという話が一人歩きしています。すごく曖昧な根拠だと思います。

そういったものをもとにして、被災者から清流川辺川や球磨川を奪わないでいただきたいと思います。

もうやはり発想を変える時だと思います。人の暮らしや自然環境と共存するような方法を、皆で鋭意考えていく時が来たのではないかと思います。

豊かな球磨川を再生するように手を貸していただきたいです。これが被災した、命も投げ出した流域住民の洪水後の五番目の願いです。どうぞよろしくお願いいいたします。

【発言者⑨（人吉球磨ムーンリバーズ）】

私は皆さんの発言の後にずっと拍手をし続けました。

ダム賛成や反対に対して拍手をしたわけではなくて、水害が本当に苦しい中、毎日のようにマスコミにダムの話がある中、顔を出して名前を出してこの場に参加して、思いを馳せられることに対して、心から尊敬の意味をもって全員に拍手をいたしました。

我々は水害後に発足した任意の団体でございまして、30代40代の事業者を中心に議論を開始している団体です。

ムーンリバーズというのは、皆さん今回議題の中心であるやっぱり人吉・球磨の、川の美しさは本当に小学校、私も生まれて育って、（聞き取れず）実際に人吉に帰ってきて、人吉・球磨に帰ってきてやっぱり川は美しいなという思い。それとヘップバーンのムーンリバーという歌があるんですけど、歌詞を読むと本当に前向きな歌なんですね。

仲間たちが水害で苦しむ中、話をしてみて、ここは何とか皆で立ち上がってピンチをチャンスに変えたいと、ここにいる人吉・球磨盆地は全員が一蓮托生で、一丸となってこれから始まる苦しい時代、少子高齢化とか、いろんな問題があります。それに向かって全員で前を向いていきたいというところで、人吉・球磨ムーンリバーズという名前にしました。

我々のモットーは自分達が幸せになること、自分たちの幸せを追求することが周りの人も幸せになる道を何が何でも、なんとしてでも見つけ出すんだと。日本は資本主義と民主主義です。人は立場で生きております。その難しいジレンマを今知事はお悩みになっていると思いますが、何が何でも見つけ出す。そういうモットーで議論も3か月間重ね続けております。

今回ご協力、ご了解をいただきまして、資料を配らせてもらっておりますので、それを読ませていただきます。

人吉・球磨グランドデザイン会議。人吉・球磨がどんな町、町は衰退し続け若者の流出は止まらず収入は減り続け、約1700ある自治体の日本最低のレベルにまで落ち込み、令和になって水害で多くの生命と財産が失われた。

暴論だと、いやいやもっと素晴らしい地域なんだと反論があろうかと思いますが、全て事実です。

次のページでございます。

我々の立場は、治水が町を決めるのではなくて、町のビジョンが、町の理想が治水を決めるんだと。50年間、治水に関してもめ続けていますが、私の見立ては町のビジョン、理想が決まってないからだというふうに感じています。今こそビジョンを作る、子どもたちに自信をもって渡せる町をつくりたいんだというのが最初の出だしでございました。

そこで我々がまず復興局に8月ぐらいにおじゃまして、最初にお願ひしたのが、グランドデザイン会議を設置してほしいというお願ひでございました。

子どもたちは生まれる場所も育つ場所も選べません。まして社会を変える力もありません。

今回の不幸中の幸いは、子どもに被害がでなかったことです。

社会を変えるのは、ここにいられる大人たち全員の責任、我々が社会を変えることができる。

私も7歳、4歳、1歳の子どもがおりまして、彼らにあなたたちの生まれた地域は本当に素晴らしいんだと、自信をもって遊べる場所にしたいんだと、そこでグランドデザイン会議を開催して5年ですけども、民間中心に世代別に18歳、もしくは中学生からでもいいかもしれません。今彼らは本当に我々以上にしんどい時代を生きています。20歳の子は10歳で東日本、20歳でコロナ、水害です。全然我々とは考え方もおそらく価値観も違うはずで。

彼らも含めて会議体を作り、国交省や他の震災、東北などの復興経験者の方々からも正確に学んで、考えて、政治決定者の方々に提言するという会議を作っていたきたいというお願ひをしました。

返答は復興局では難しいという返答でございましたけれども、しつこくしつこくお願ひをしていきたいというふうに思っております。

議題は何ですかというと、治水じゃございませんで、先ほど申しましたように、町のビジョンが治水を決めると。理想の町人吉・球磨全体でデザインをする。理想から逆算して今は何をすべきなのか。理想の町にとって何が必要なのか、どういう仕組みが必要なのか、人吉・球磨全体を俯瞰し、これから100年、200年を俯瞰して人吉・球磨全体を構築したい。

治水は町の一部ですが、喫緊の課題です。治水を正しく理解したい。

今回議論もありましたが、ダムを作るダムを作らない。いずれの計画も正しく理解をして、これから100年、200年どう生きていくべきか、どういう町を子どもたちに渡すのかというのを考えて行きたい。

正しく理解して、ダムを作る・作らないというのはありだと思います。正しく理解をしないで判断するのは、子どもたちに対して失礼だと思います。失礼です。

3か月間いろんな方に治水の話聞いておりましたが、更にもっともっと勉強し続けたいし、私の周りの若い人間は、もうダムでもめているのであまり首を突っ込みたくない、ダムの話はタブーされているという話が多いです。非常によくないと思います。

自分の幸せが他人の幸せになる。何が何でも産み出すんだと、そこが欠けているので手段の話に翻弄され続けている。

解決の方向性を我々は議論しまして、新しいまちを作るということを議論して決定してここに臨んでおります。

グランドデザインの中核のコンセプトは観光、農業、林業、デジタル、環境、これからの水害、地震、いろいろなことがあります。コロナもきます。

我々は少子高齢化、最初に申し上げました町がどんどん衰退していく。若者がどんどん出て行く。水害が起きたら加速していくだろうと、それに対して人吉・球磨全体でエンジンを作りたいんだと。外貨を稼げる産業、その5つのエンジン、この順番が大事だと思います。観光、農業、林業、デジタル、環境。人吉・球磨全体で外貨を稼げる町を設計するんだと。今はスーパーシティー、昨年法を作って推しております。菅さんもデジタル庁を作るというふうに言っておりますが、地域のエンジンを水が来ないところに据えると、人吉・球磨の盆地は地形上、今人吉市、球磨村は甚大な被害ですが水があふれやすい地域にそもそも町ができております。

「人吉・球磨 風水・祈りの浄化町」、我々は風水都市を再発見しました。

18代相良義陽が、戦国時代に活躍した彼が、人吉城をグランドデザインに描いて三日月城を中心に風水都市を設計した。それ以来、そこに町ができて、何度も何度も水害に遭っていますが、そもそも水が来る、溢れやすいところに町があると。であれば、人吉・球磨全体を俯瞰して、ここであれば水が来ないというところに町を作るという発想をとればいいんじゃないかと。

政治経済の中心は人吉市にあります。今回、病院をはじめ、幾多のセーフティネットが水に沈みました。人吉が止まれば、人吉・球磨全体が止まる。身をもって体験しています。大変時間がかかることをございます。来年、再来年というわけじゃなくて、20年30年かけて新しい町を作っていくと、長いから諦めるんじゃないかと、長いからこそ旗を立てると、先ほど申し上げたように100年、200年かかるんだと。

おそらく我々はまちづくりに関して、少しなめたところがあって、5年、10年で解決しようという発想がそもそも間違っていて、50年、100年単位で考えないとダメなんだと。今我々が苦しんでいるのは対処療法、何か事が起きたらこういうふう知事中心に皆で集まって大騒ぎして、その場その場の対

策をとってきて、根本的に治療法を今考えないと、子どもたち、そのまた次の世代に対して責任ある町、地域が作れないと考えています。

人吉・球磨が水に浸かる地域として、じゃあそこを何も誰も生命、財産がない地域にするかということ、そうではございませんで、先ほどグランドコンセプトで申し上げた今回いろんな方が発言しておりますが、人吉・球磨の中心の産業は観光に据えるんだと。観光で生きていくんだと覚悟する。

三日月城を中心に風水、マーケティング戦略上間違いなく九州オンリーワンです。1700ある自治体で風水都市をうたっているのは人吉市だけです。京都、江戸は自分の自治体としてうたっているわけじゃございません。

ここを徹底的に活用して人吉・球磨全体を持ち上げるというのが、人吉・球磨風水の浄化町の戦略です。それを活用せざるを得ません。徹底的に活用すべきです。

するとそこに、今日もいらっしゃいますが温泉旅館をはじめ、皆さんなりわいをしていらっしゃいます。

そこに浄化町を今回、今本当に毎日のように解体が始まってこの先どうなるんだろうということになると思いますが、逆に今ピンチをチャンスに変え、観光に踏み切っていく。浄化町、日光江戸村みたいな感じでワンプロックでもいいので、思い切ってそこに浄化町を復活させるんだと、そうすれば強力な観光のエリアになる。

水害、コロナ以前よりもさらに観光客が増やすことができる。当然時間がかかります。時間がかかりますが、そのプロセスを観光に投げることができます。

私たちが提案しているのは、ものすごく時間がかかる話でございます。

繰り返しますが、まちづくり、地域づくりは本当に時間がかかるというのが、この3か月間皆で議論してはっきりとわかりました。

我々が生きている時代には解決しないんだろうと思います。ですが、コンセプトとビジョンは渡せます。バトンを渡せる。

価値観は時代によって変わります。

ダムも50年前には戦後復興、電力不足、農業発展、公共事業を中心とした地域経済、そういった役割だったと思います。

ですが、これからまた100年後を考えた時に新しい町、時代、生き方があって、それは我々に考えさせてくれと。ごめんなさい。ちょっと最後にですね。人吉・球磨グランドデザイン会議ですね、ここ抜けているんですけど、有識者会議の方と議論させていただきたいと、有識者会議、素晴らしいメンバーの方でいらっしゃいます。地域づくりは人づくり。人材の育成です。知事は大学の先生でいらっしゃいます。ぜひとも我々に先生のお仲間の、素晴らしい学

者の方と交流させていただいて、勉強させていただきたいと、そういう機会をもたせていただきたい。

我々でできます。我々がこの場所のビジョンを決めたい。責任ある我々に任せていただきたい。

もうもめることなく一丸となって、これから来るいろんな課題難題に対して、人吉・球磨は沈まずに揉めず、前に前に進んでいきたいんだということで今日まいりました。以上です。

【発言者⑩（五木村観光情報センター）】

五木村観光情報センターの〇〇と申します。並びに、溪流ヴィラITUKIの〇〇〇もやらせていただいております。

知事におかれましては、昨日、五木村にお越しいただきましてありがとうございます。

今日この場、昨日と同じ発言になるかとは思いますが、ご了承下さい。

五木村は幸いこの豪雨における大きな被害はございませんでした。

ただ、幹線道路が崖崩れ、陥没等によりしばらくの間通行できない日がありましたので、多くのお客様、ご予約いただいていたにも関わらず全てお断りをいたしまして、道路が復旧した後、この人吉のほうにスタッフで下りてまいりまして片付けのお手伝いをしばらくさせていただき、その時にこの水害の甚大な大きな被害を目の当たりにして大変驚いた次第です。

その後、2週間後に営業を再開したんですけれども、なかなかお客さんが元に戻らず、コロナの影響もあって大変厳しい状況になっていたのは確かです。

ただ、今現在G・O・T・ラベル等での利用客が増えまして、来年1月までの週末は全て満室をいただいております、今も平日のご予約がどんどん入ってきているというような状況ではあります。

五木村においては、皆様もご承知のとおり、川辺川ダムの水没地として大変有名になっている場所なんですけれども、以前知事のほうでダムの建設を白紙撤回されまして、その水没予定地だったところに建てられたのが溪流ヴィラITUKIでございます。

一年前、2019年の4月にオープンしまして、今一年半ほど経っておりますが、おかげさまで来ていただいたお客様には、大変満足をしていただいております。

五木村は元々林業、農業等の産業が主でありましたが、この観光も今では大きな産業の一つとなっております。

この観光は豊かな自然、特に川辺川、10年以上清流日本一といわれる川辺川を観光資源として足を運んでいただいているお客様が多数いらっしゃいます。

その観光資源を生かした今後の五木村の取組みについては、今話題に上がっている川辺川は大きな要素になってきているんですが、我々観光に携わる者としては、今後どういう方向で知事が判断されるかには関わらず、精一杯お客様におもてなしをして、もう今現在目の前に多くのお客様からご予約をいただいておりますので、その目の前のお客様に精一杯おもてなしをして、ダムができるできないに関わらず、再度五木村に足を運ぼう、遊びに行こう、第二のふるさとというような感じを持っていただけるように、精一杯努力をするだけだと考えております。

私は元々鹿児島出身で、この溪流ヴィラITUKIのオープンのために来ましたので、まだ2年経っておりません。

ですから、当時の川辺川ダムの問題、五木村の方々の苦悩、それから今回の水害における被害に遭われた方々の本当の苦しみというのは理解はできていない、できないと思いますので、ダムについての賛成とか、反対とか言う権利はないし、立場でもない。ですので、今現在は目の前に多くのお客様が五木村にご予約をいただいておりますので、本当に精一杯そのお客様に対しておもてなしをしていこうというふうに考えています。

ただ、先ほども申しましたように、溪流ヴィラITUKIは、既に五木村の産業にとって大きな要となる施設となってきております。

ですから今現在建てられている場所、水没予定地、これがダムができることによって沈んでしまうことになるわけですがけれども、この施設がもし沈むことになったとしても、違う所に移転をする。もしくは新しく建てる等の検討をぜひしていただきたいなというふうに思っております。

五木村にとっては、本当にこの観光産業というのは重要なポイントに今はもうなっておりますので、ぜひその点を考慮していただきながら進めていただきたいと思っております。

繰り返しになるかとは思いますが、本当に正しいデータを正しく判断していただいて、ベストな方法を決断していただいて、正確に私どもに伝えていただければ、それを基に私たちは今後どうしていくか、五木村、球磨地域、本当にこの川というのは、人吉・球磨地域にとっては大きな産業のポイントでありますので、その川を生かした観光事業に取り組んで努力してまいりたいと思いますので、何卒よろしく願いいたします。以上です。

(以 上)